



Data

監督：ウォーリー・フィスター
脚本：ジャック・バグレン
出演：ジョニー・デップ/モーガン・フリーマン/レベッカ・ホール/ケイト・マーラ/キリアン・マーフィ/コール・ハウザー/ポール・ベタニー

👁️👁️ みどころ

人工知能（AI）には、①ゲーム系AI、②制御系AI、③知識系AIがあるが、人間の意識をインストールした“Strong AI”が誕生すれば…。さらに、今は存否不明だが、STAP細胞やその発展型のナノテクノロジーが現実になれば、秦の始皇帝も夢見た「不老不死」の薬も可能に。

そんな現実に近い将来ホントに訪れそうだから、本作でしっかり予行演習しておくのも意義深い。学習とエンタメの両視点から、本作をしっかり鑑賞したい。



■同じAI（人工知能）でも、「超越」ともなると・・・■

本作のパンフレットにある山口高平氏の『「トランセンデンス」におけるRのリアリティ』によると、アメリカで1956年から開始されたAI（人工知能）の研究は、現在、①ゲーム系AI、②制御系AI、③知識系AIに分かれている。①はチェスや将棋のゲームソフトで活用、②はルンバのような掃除ロボで活用、③はクイズ番組等で実力を発揮。そんな現況下で登場した面白い映画が、『her 世界でひとつの彼女』（13年）だった。AI（人工知能）が進歩すれば、恋人だって生身の女は不要！スマホのOS（オペレーティング・システム）の中に入っていた、「声だけ出演」のスカーレット・ヨハンソンが豊富なボディを見せつけることなく、第8回ローマ国際映画祭で最優秀女優賞を受賞したのは立派だが、私に言わせれば、やっぱり女は生身が一番・・・。

それはともかく、『her 世界でひとつの彼女』におけるAI（人工知能）はかわいかったし、楽しかったが、本作のタイトルになっている「超越」という意味の「トランセン

デンス」のレベルになると・・・？

前記コラムによると、前記3つのAIは、“Weak AI”、つまり、「特定の問題解決において人に勝るだけ」のAIであるのに対し、本作の主人公ウィル・キャスター（ジョニー・デップ）のマインド・アップロード（意識転送）によって、ウィルの意識を初期知能として進化させたAIコンピュータ「PINN」は、人類を超越して意識さえも持ちえる“Strong AI”だ。しかし、将棋では既にプロ棋士が「ponanza」をはじめとするいくつかの種類の将棋ソフト（人工知能）に昨年は1勝3敗1分け、今年は1勝4敗で負けこしているのに、そんな“Strong AI”が生まれてくると、その脅威は・・・？

■RIFTのモットーは？これは過激派テロ組織？■

科学技術の進歩は、一方では人類の進歩・発展にとって喜ばしいことだが、その反面いろいろな危険もはらんでいる。しかし、「科学技術の遮断」を標榜し、「テクノロジーのない進化」をモットーに掲げて生まれた組織が「RIFT」。これは、「Revolutionary Independence From Technology」の頭文字から命名されており、「科学技術からの革命独立組織」を意味している。「Unplugged（プラグを抜け）」と描かれたタトゥーを入れているその構成員たちは、自らの思想信条をまっとうするためには手段を選ばないため、RIFTは「過激なテロリスト集団」として知られているらしい。『マーサ、あるいはマーシー・メイ』（11年）では、カルト集団組織に入り込む中で、2つの人格に引き裂かれる少女マーサ役を演じた新人女優エリザベス・オルセンの熱演が光っていた（『シネマルーム30』220頁参照）が、本作に見るRIFTの女性リーダー、ブリー・ネビズ（ケイト・マーラ）もかなり過激なようだ。

本作導入部では、ウィルの恩師である科学者ジョセフ・タガー（モーガン・フリーマン）の研究室が爆破されたのに続いて、カリフォルニア大学バークレー校で講演会を行ったウィルがRIFTの銃弾に倒れるという悲劇が描かれる。これは、RIFTの「人工知能を研究する全米中の施設を襲撃する」という、基本方針にもとづいて実行されたテロ行為だが、ウィルの傷が浅かったのはラッキー。共に研究を続けている愛妻のエヴリン・キャスター（レベッカ・ホール）の手厚い看病の甲斐あって、ウィルの傷はFBI捜査官のブキャナン（キリアン・マーフィ）やジョセフを自分の研究室に案内できるほどの回復ぶりを見せたが、その日の夜になると容体が急変。それは、銃弾に放射性物質が塗られていたためだということが判明したが、コトここに至っての医師の診断は「多機能不全に陥るまで4週間」。つまり、ウィルの命はあと4週間という絶望的な宣告だったから、さあ大変だ。

■猿の意識のデータ化が可能なら、人間の意識だって■

今年の夏は『猿の惑星』シリーズ最新作となる『猿の惑星 新世紀（ライジング）』（1

4年)が公開されるが、人間と同等あるいはそれ以上の知性を持った猿(の軍団)というこのシリーズの発想は、何とも斬新なものだった。しかし、ジョセフの研究室でも、ウィルとエヴリンの研究室でも、猿の意識のデータ化は既に成功していたから、次のテーマは人間の意識のデータ化。それに成功すれば、いわゆる「意識を持ったAI(人工知能)」の誕生だから、ニュートンやアインシュタイン、湯川秀樹博士のようなものすごく優秀な人間の意識(頭脳)をデータ化すれば、すごいAIが誕生するはずだ。そんな状況下、ウィルの死は避けられないとしたら、ウィルの意識(頭脳)をデータ化して残せばいいのでは・・・?エヴリンもジョセフも、そしてマックス・ウォーターズ(ポール・ベタニー)もそう考えたのは当然だが、それは言うは易く行うは難いもの。何よりもそんなことをウィル自身が望んでいるの?それとも・・・?

ハリウッド随一の個性派俳優たるジョニー・デップは、『パイレーツ・オブ・カリビアン』(03年)、『シネマルーム3』101頁参照)におけるジャック・スパロウ船長のようなエンタメ色満載の役も似合うし、本作のウィルのようなシリアスな役もよく似合う。そんなジョニー・デップ演ずるウィルは、妻のエヴリンや親友のマックスたちの思惑を大きく超えて、自らの意識(頭脳)をデータ化することを当然と考えていたようだ。もし、天才科学者ウィルの頭脳を人工知能にインストールすることに成功したら……。そんな本作のテーマ(本論)が導入部を終えたところから進んでいくが、さてその展開は?

『三国志』の終盤には「死せる孔明、生ける仲達を走らす」という面白い物語があるが、死してなお“Strong AI”として復活してきたウィルは、これから何を目指し、エヴリンに対して何を指示していくの・・・?

■このまま“Strong AI”の進歩が続けば?■

理研こと理化学研究所の小保方晴子氏たちの研究成果たるSTAP細胞は本当にあるの?それともないの?それは今後の厳格な監視下での検証作業によらなければわからないが、近年の細胞再生やナノ細胞の分解におけるテクノロジーの発展はめざましい。患部に数滴の液体を垂らしただけで、たちまち細胞が活性化し元気になってくれれば、かつて秦の始皇帝が欲したような「不老不死」の薬の誕生になるはずだ。かつてイエス・キリストは手を触れただけで「らい病」患者を治したり、目の見えない人の目が見えるようになったらしいが、2000年後の今、それが科学的に実証されることになる。

しかして、本作中盤以降の舞台は、エヴリンが荒廃した町全体を買い占めて建設したハイテク施設に移っていく。何千と建ち並ぶ巨大なソーラーパネルのど真ん中に建てられたハイテク施設の中核は、地下5階にあるデータセンター。ウィルはその中で、エヴリンと共に日々研究に邁進していたが、その研究とは「不死身へと至る再生治療」だ。

今、実験的に呼び寄せた目の見えない男は、ウィルの開発した再生手術にかかるのとたちまち目が見えるように。さらに、大怪我で瀕死の重傷を負ったハイテク施設の作業員も、

ウィルの開発した再生手術にかかるとたちまち元気になったばかりか、通常人の何倍もの力持ちに。さらに、エヴリンがビックリしたのは、死んだはずのウィルがこの作業員の意識の中に入り込み、エヴリンに対して愛を迫ってきたこと。これには、さすがにエヴリンも仰天し、拒絶したが、さて、ウィルの“Strong AI”の進歩は一体どこまで・・・？このまま進めば、まさに神の領域まで・・・。



『トランセンデンス』 発売日：2014. 12. 2
発売元：ポニーキャニオン 販売元：ポニーキャニオン
価格：DVD¥3,800 (本体) +税、Blu-ray¥4,700 (本体) +税
(C) 2014 Alcon Entertainment, LLC All Rights Reserved.

■□■「ウィル博士から学ぶ自我アップロード入門」とは？■□■

共に人工知能の研究に邁進してきた、公私にわたるパートナーであるウィルとエヴリンがかつて語っていた夢は、「飢えも貧困もないよき未来」をつくること。あくまで人工知能はそのための手段だ。しかし、石炭や石油に代替する巨大なエネルギーになるはずの原子力が、その使い方によっては人類を滅亡させる武器になるのと同じように、ウィルの意識をインストールした巨大コンピュータたる“Strong AI”だってその使い方を誤れば・・・。

本作のパンフレットの中には「ウィル・キャスター博士から学ぶ自我アップロード入門」という面白いページがあり、そこには「超頭脳ならばできること」としてリスト1～リスト6の項目が載っている。そこで最もわかりやすいのは、リスト6の「超現実的な能力の獲得」と、リスト1の「マーケット情報の掌握」だ。リスト6は「最後にキャスター博士の偉業を紹介しましょう。長年人工知能を研究してきた博士は、超頭脳を駆使し、生命の再生をも可能にしました。滅んだはずの自身の肉体を再生させ、夫人の前に生前同様の姿であられたのです」だが、リスト1は「銀行や株式市場を始め、あらゆるマーケット情報を手中に収められるようになります。モーターの空き情報・予約から、株の大量売買、土地・家・ホテル・ダイナーの購入まで、金銭的に苦勞することはなくなるでしょう」というものだ。私にこの両者ができれば、私はずっと不老不死だし、お金の苦勞も全く無いことになるが、ホントにそんなことができるの？

■□■エヴリンの夢とウィルの夢は？しかし、現実とは？■□■

閣議決定による「集団的自衛権の憲法解釈の変更」に対する、最も理性的な反論は「そんなことを認めれば、時の内閣の考え方如何によってどうにでも解釈できてしまうのでは」というものだ。もちろん、内閣に一定の裁量権が必要なことは当然だが、憲法の縛りを無視して時の内閣に自由な解釈を認めることはナンセンスだ。それと同じように、ウィルが支配する“Strong AI”が、ホントに飢えも貧困もないよき未来のために働くのならいいが、ウィルが人間を超えた神の存在になってしまえば・・・。

本作後半からクライマックスにかけてはそれを恐れたブキャナン捜査官、ジョセフ、マックスたちがRIFTと連合して、ウィルの“Strong AI”と対峙することになる。そこでの最大のポイントは、エヴリンがいかなる立場をとるか、ということだが、そんなクライマックスの展開はあなた自身の目でしっかりと。『ノア 約束の舟』（14年）では忠実に神との約束を果たしたノアの一族は、その後繁栄していくことになったが、自らの意識をコンピュータにインストールすることによって、神の領域に入ろうとしたウィルと、その忠実なパートナーだったエヴリンの本作におけるラストは・・・？

2014（平成26）年7月9日記